

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

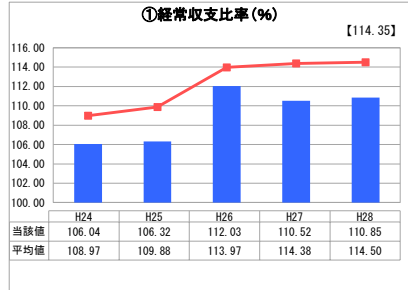
広島県 広島市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	政令市等	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	62.69	97.71	2,354	

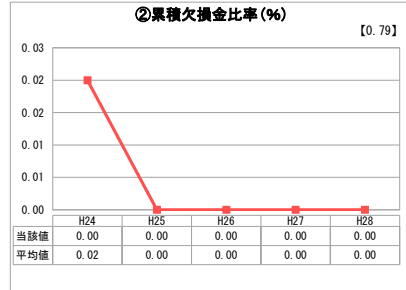
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
1,193,857	906.53	1,316.95
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
1,229,392	272.01	4,519.66

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成28年度全国平均

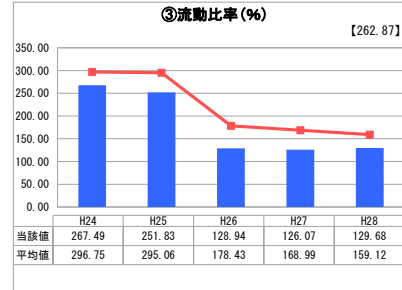
## 1. 経営の健全性・効率性



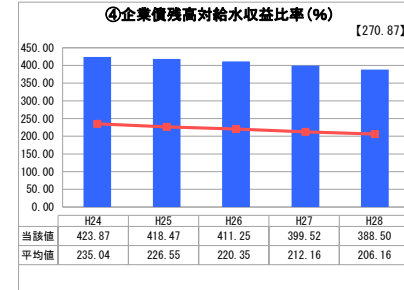
「経常損益」



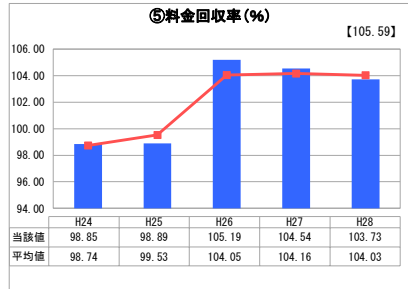
「累積欠損」



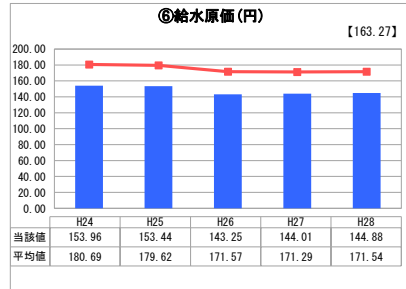
「支払能力」



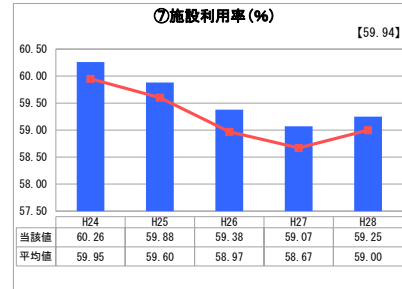
「債務残高」



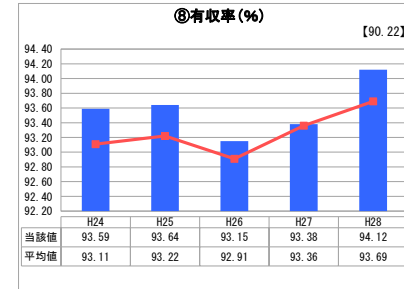
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

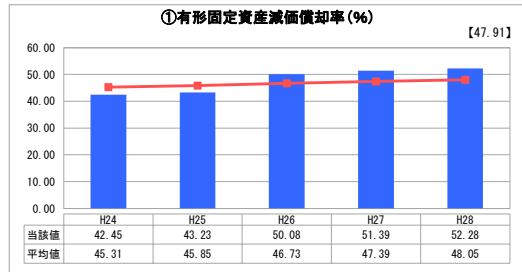


「施設の効率性」

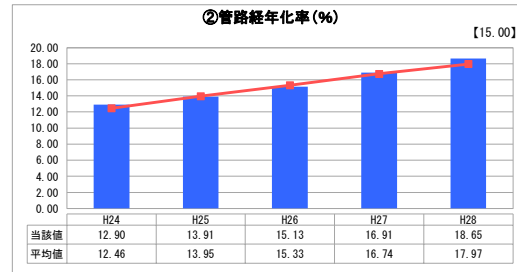


「供給した配水量の効率性」

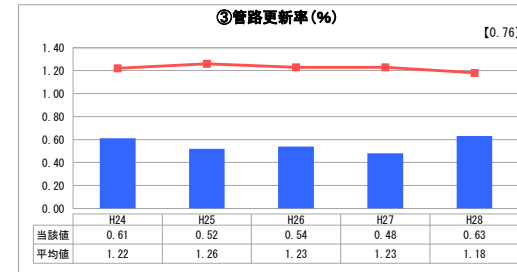
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率  
類似団体平均値を下回っているものの100%を超えており、単年度収支は黒字で推移しています。

② 累積欠損金比率  
欠損金を生じていないため0%で推移しています。

③ 流動比率  
類似団体平均値を下回っているものの100%を超えており、短期的な支払能力は確保できています。

④ 企業債残高対給水収益比率  
類似団体平均値を大きく上回っていますが、企業債残高の抑制に努めており、年々着実に低下しています。

⑤ 料金回収率  
平成26年度以降は、100%を超える水準で推移しており、給水に必要な費用は水道料金で回収できています。

⑥ 給水原価  
類似団体平均値を下回る水準にあり、ほぼ横ばいで推移しています。

⑦ 施設利用率  
類似団体平均値を上回っているものの、配水量の減少に伴い年々低下傾向にある中で、平成28年度は、将来的な水需要の減少を踏まえ、一部、配水能力を減少させたことから上昇しています。

⑧ 有収率  
平成26年度は豪雨災害の影響により前年度比較で低下しましたが、平成27年度以降は再び上昇しています。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
施設の長寿命化を進めていることもあり、年々上昇傾向にあります。今後もこうした傾向が続く見込みです。

② 管路経年化率  
昭和40年代以降、市域の拡大等に対応するため、集中的に管路整備を進めてきたことから、今後も上昇する見込みです。

③ 管路更新率  
類似団体平均値を下回る水準にありますが、管路更新に当たっては、漏水事故の発生状況や管種及び埋設土壌等を勘案し、優先順位を見極めながら計画的に実施しています。

### 全体総括

水道事業運営に当たっては、主要施策や健全経営推進のための取組を織り込んだ中期経営計画を策定し、基幹施設の更新・改良等を図りつつ、経営の効率化や企業債残高の削減などに努めています。

経営面では、経常損益は黒字を維持していますが、有利子負債である企業債残高はまだまだ高い水準にあることから、引き続き、財務体質の強化に取り組んでいく必要があります。

施設面では、水道施設維持保全計画を策定し、施設の長寿命化により更新需要の抑制及び平準化を図っています。とりわけ管路については、漏水事故の発生状況や管種及び埋設土壌等を勘案しながら、計画的な更新等を実施しています。

平成30年2月に、経営戦略として、広島市水道ビジョンを改定するとともに次期中期経営計画を策定し、これまでに中長期的な視点に立った計画的な経営を推進し健全経営を維持していきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。